

# 景況レポート

(11月分・情報連絡員80名)

## DI値が再び悪化に転じ、一進一退の状況が続く

【概況】11月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.3%(前月調査11.3%)、「悪化」が47.5%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-36.2%となり、前月調査と比較して12.5ポイント下回った。県内景況は前月同様、一部の業種で季節的要因等により景況が回復しているが、円安の影響で燃料・原材料価格の高騰等によるコスト増から、DI値は前月調査と比較して再び悪化に転じるなど、一進一退の状況となっている。加えて、個人消費の低迷により、前年同月比で売上が減少したとの報告が多くあることから、今後の県内景況については、予断を許さない状況となっている。

前月との比較(景況DI)

	11月	10月	増減
製造業	-46.9	-28.1	-18.8
非製造業	-29.2	-20.8	-8.4

製造業のDI値は、-46.9となり前月比で18.8ポイント下回った。生コンクリートでは、5ヶ月ぶりに前年比を上回ったが、4月からの累計は前年を下回っている。また、機械金属、鉄鋼、一般機器では、前月同様に受注が増加しているが、冬場の受注量減少や燃料価格の上昇を懸念する声寄せられたほか、新規受注が不透明な状況となっている。一方、食品、印刷では、依然として円安の影響により原材料価格が上昇しており、経営を圧迫している。

非製造業のDI値は、-29.2となり前月比で8.4ポイント下回った。青果卸、旅行では、個人消費の低迷により、前年同月比で売上が減少した。また、一般建築、電気工事では、人材不足が生じており、入札への参加に支障を来している。

一方、運輸業は、平成26年産米や青果物の輸送で繁忙となり、売上、収益ともに前年同月比で増加したが、車両、ドライバーともに不足している。また、型枠工事では、前月同様に稼働率が高い状況で推移し、売上は増加傾向となっているが、一般建築、電気工事とともに、人材不足が課題となっている。

(回答数：80名 回答率：100%)

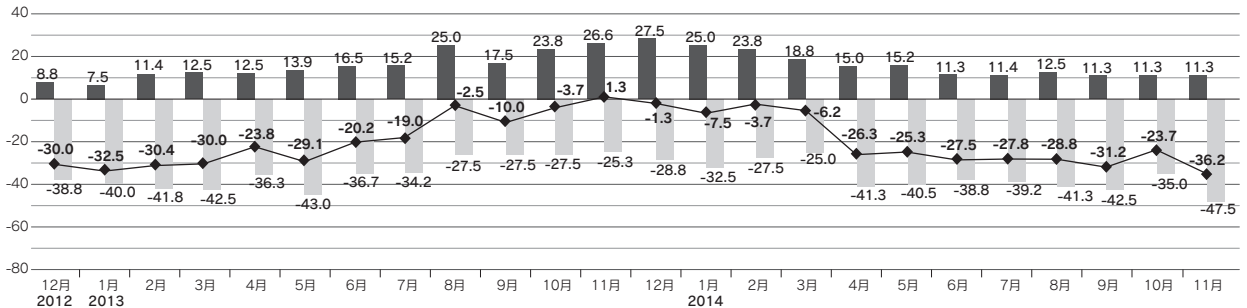
項目	業種の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
非製造業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化



【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]

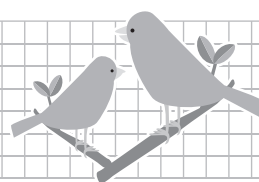


### 業界の声

食料品 (豆腐)	県外の大手企業の進出により、前年同月比で売上が減少している。また、円安の影響により大豆等の原材料価格が上昇しており、経営を圧迫している。
繊維製品	紳士服は、個人消費の低迷に伴い、売上は前年同月比で横這いに推移した。一方、婦人服は、ロット数の多い定番商品や工程が比較的少ない商品がリピートで発注されたため、前年同月比で売上が増加した。
木材・木製品 (素材生産)	消費税増税前の駆け込み需要による反動減の影響により、住宅着工数が大幅に減少し、製材品の在庫が増加した。そのため、合板工場が生産調整を行っており、丸太の荷動きは前年同月比で横這いに推移した。
印刷	昨年夏以降の電気料金の値上がりにより収益状況を悪化させており、消費税増税や円安の影響により、諸材料の値上がりも進行し、経営を圧迫している。また、得意先の動向からも、依然として消費税増税による消費低迷が続いており、安値受注の改善が見られない。(中央地区)
窯業・土石 (生コンクリート)	11月の出荷数量は、前年同月比で約100.2%となり、5ヶ月ぶりに前年比を上回ったが、4月～11月の累計では前年比で約98.7%と2.3%減少しており、依然として予断を許さない状況となっている。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	民間工事、公共工事ともに受注が増加している。なお、冬場に入り見積物件が減少傾向にあるため、来月以降は新規受注が見込めないと予測している。
一般機械	前年同月比で受注量は増加しており、当面は増加傾向で推移していくと予測している。なお、円安の影響により原材料価格が上昇傾向となっており、値上がり分を販売価格に転嫁することが容易ではない状況となっている。
その他の製造業 (漆器)	本県で10月4日～11月3日に開催された国民文化祭の影響により、前年同月比で売上が増加し、産地が活性化された。しかし、11月中旬以降は、国民文化祭終了後の反動減対策として企画展等でPRしたものの、売上が伸び悩んだ。なお、冬場は客足の減少が予測されるため、売上の低迷が懸念される。

卸売(青果卸)	11月の売上は、前年同月比82.2%と低調に推移した。また、商品価格も安値で推移しており、個人消費の低迷等により販売数量、売上ともに伸び悩んでいる状況となっている。
小売(電機販売)	11月の売上実績は、前年同様に暖房機を中心に比較的好調に推移したが、買替需要が主だったため、大幅な売上増加には至らなかった。また、映像関連機器は、デジタル化や大型化の傾向となっており、今後、買替需要に結びつくことを期待したい。
商店街	11月の売上実績は、身の回り品と家電小売業は前年同月比でほぼ横這いに推移した。また、酒類販売業は地酒の販売が順調に推移し、前年同月比で売上が増加した。(秋田市)
サービス(旅行)	国内旅行の売上は、個人消費の低迷により前年同月比81.5%となった。また、海外旅行の売上は、円安の影響により前年同月比89.0%となり、それぞれ低調に推移した。なお、年末年始は長期休暇等の取得で国内旅行、海外旅行ともに売上が増加すると予測している。
建設業(型枠工事)	前年同月比で型枠単価が上昇しており、稼働率も前月同様に高く推移しているため、売上高は増加傾向となっている。なお、型枠大工と型枠解体工は人材不足となっており、RC造(鉄筋コンクリート造)の物件では作業工程に支障を来している。
運輸業(トラック)	11月の輸送量の動きとしては、前月同様に26年産米や青果物の輸送で各社繁忙となり、売上、収益ともに前年同月比で約5～7%増加したが、車両、ドライバーともに不足している。なお、燃料価格は値下がりし、前年同月比で安値で推移しているが、依然として高止まりが続いている。
その他の製造業(砂利採取)	道路路盤材と生コン用骨材の出荷量が前年同月比で増加したが、一時的なものである。(県南地区)

# 話題の広場



## 中央会事業より

### 顧客満足度向上のためのサービスを学ぶ(組合活力向上事業) ～秋田県葬祭業協同組合～

葬祭業界では、近年、葬儀形態の変化による売上減少や大手企業の参入等による競争激化により、経営環境が悪化しています。そこで、秋田県葬祭業協同組合(半田雅之理事長)では「組合活力向上事業」を活用し、小規模葬祭業者ならではの顧客サービスの在り方を学ぶことにより、大手葬祭業者との差別化を図るための研修会を開催し、30名が参加しました。

研修会では、大栄株式会社ヒューマンサポート事業部の津々路裕子氏より、「SWOT分析(強み、弱み、機会、脅威)を活用して自社にしかできないサービスを考えること」や「事前相談制度等を活用した独自の絆づくり」等について詳しく説明が行われたほか、お客様の心をつかむためにはコミュニケーション力を高めることが重要であり、日頃から意識してロールプレイング研修に取り組むようアドバイスが行われました。

当組合では、今回の研修内容を活かし、事前相談に積極的に取り組むほか、今後更なる経営力の強化を目指し、成功事例を学ぶための研修会を開催することとしています。



【研修会の様子】

### 円滑な事業承継のための研修会を開催(事業承継円滑化事業) ～秋田県米穀工業協同組合～

本会では、今年度、「事業承継円滑化事業」を実施し、組合ごとの研修会と個別企業に対する専門家派遣事業を通じ、早めの事業承継対策と個別企業が抱える課題解決について支援しています。

その第1回として、11月22日(土)、秋田キャッスルホテル(秋田市)において、秋田県米穀工業協同組合(進藤英俊理事長)を対象とした研修会を開催し、11名が出席しました。

研修会では、税理士の菊池祐輝氏から、事業承継対策のポイントとして、「自社の理念や技術、得意先などの財務諸表に現れない経営資源を引き継ぐこと」や「後継者にとって魅力のある企業にすること」等について説明が行われたほか、税法上の特例措置の活用にあたっては「留意点が多いため、専門家に相談すること」等のアドバイスが行われ、参加者からは「現在、事業承継に取り組んでいるところであり役に立った」、「相続税・贈与税の仕組みが理解できた」等参考になったとの意見が多く聞かれました。

今後は、組合員企業を対象に専門家を派遣し、スムーズな事業承継について支援を行っていく予定です。



【研修会の様子】